

平成 25 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会議事要録

日 時 平成 25 年 6 月 20 日（木）10 時 00 分～12 時 05 分
場 所 宇都宮大学本部第一会議室
出 席 者 進村，飯村，板橋，橋本，増山，森，築，石田，井本，茅野，加藤，藤井，
池田，杉田の各委員
伊藤監事，吉田監事，佐々木学長特別補佐

議事に先立ち，学長から，平成 25 年度第 1 回宇都宮大学経営協議会開催にあたっての挨拶があり，併せて，平成 25 年 5 月 20 日（月）に実施した経営協議会学外委員による本学施設の視察参加に対するお礼の挨拶があった。

次に，平成 24 年度第 6 回宇都宮大学経営協議会議事要録（案）を確認し，原案のとおり承認した。

[議 題]

1. 平成 24 事業年度に係る業務の実績報告書（案）について 資料 1

石田理事から，資料 1 に基づき，平成 24 事業年度に係る業務の実績報告書（案）について説明があり，審議の結果，文部科学省法人評価委員会への提出時までには修正等が生じた際は，役員会に一任することとし，原案のとおり承認した。

（主な意見等）

- ・「外部有識者の積極的活用」（p. 11）に関する取組状況が記載されているが，経営協議会を有効に活用し，効率的に機能させていくために学外委員に更に期待することや，運営のあり方等についてどのように考えているか。

（→経営協議会では，できるだけ多くの意見をいただけるよう努めており，昨年度はテーマを絞った特別会議を開催するなどした。一方，もう少し活発に運営すべきではないかとの意見もあり，今後は，断片的にならないよう，特別会議を予定させていただくなどして，委員からさまざまな助言等を伺える機会を設けたいと考えている。）

- ・ 5 月 20 日（月）の学内施設の視察は，一つのプレゼンテーションのようなものとなり大変参考になった。

2. 平成 26 年度概算要求について（案） 資料 2

財務課長及び施設環境審議役から，資料 2 に基づき，平成 25 年度概算要求について（案）の説明があり，審議の結果，プロジェクト分及び基盤的設備等整備分の新規分に係る順位付け及び文部科学省との事前相談において調整等の必要が生じた際の対応については役員会に一任することとし，原案のとおり承認した。

なお，施設整備費分については，文部科学省と協議の上，6 月 17 日（月）の役員会審議を経て，「雑草科学センター改修」，「農学系総合研究棟改修（旧農学部 15 号館北棟）」，「教育学系総合研究棟改修（旧教育学部 F 棟）」，「武道場改修」及び「教育学系総合研究棟改修（旧教育学部 C 棟・音楽棟）」の 5 事業について文部科学省へ要求することとした旨の報告があり，了承された。

3. 平成 24 年度決算について（案） 資料 3

財務課長から，資料 3 に基づき，平成 24 年度決算について（案）の説明があり，審議の結果，原案のとおり承認した。

(主な意見等)

- ・大学の経営努力により総利益 48 百万円となったことはすばらしい。目的積立金の総額と今後の用途はどのようになっているのか。

(→目的積立金は、文部科学省の承認を得て、教育研究の質の向上のために計画的に使用することが可能であり、これまでの累計額 87 百万円と平成 24 年度 48 百万円の承認が得られれば、総計で 135 百万円となる。本学の計画では、音楽棟の改修に目的積立金を充当することとしている。)

[報告事項]

1. ミッション再定義について

口頭

学長から、ミッション再定義に関する背景及びこれまでの経緯等について説明があり、続いて石田理事から、本学の対応及び今後の予定等について報告があった。

(主な意見等)

- ・新聞報道にあるように、大学の再編成を視野に入れアンブレラ方式で大学改革が進められていくのではとの見方もあるが、そのあたりの感覚はどうなのか。

(→昨年 6 月には、そのように報道されている。その後、文部科学省からの話によれば、そこまでは考えていないというプロセスもある。何とも言えないが、少しトーンダウンしているのではないかと感じられる。本学としては、強みをさらに伸ばしていく必要があると認識している。)

- ・総花的であるよりも選択と集中を心がけながら、地域と連携し特色を出して存在感を示していくことが必要ではないか。また、教育方法についても、コンピューター学習が進む一方、創造的な学習が必要となる学生との二極化が進んでくることも重視する必要があり、授業方法等についても変化しているので、教員養成の役割も重要である。

(→本学では、行動できる知性を養う教育を推進している。また、全学的な教職センターを設置する予定としており、ご指摘いただいた内容の対応も始めているところである。)

(→教育再生実行会議において、大学発ベンチャーに大学が出資できるような規制緩和の検討、国立大学の運営費交付金を一層メリハリのある改善に充てること及び間接経費を設定して強みを更に伸ばすなどの提言がなされており、本学も、対応を真剣に考えていかなくてはならないと認識している。)

- ・IT を利用した革新的な教育機能情報や学習の形にも変化があり、今後、どういう学生を養成していくかを考えたとき、先生方も変わっていかないと乗り遅れてしまうのではないか。

- ・ミッション再定義の対応については、文部科学省からの要請で進めているとすれば主体性がないのではないか。

(→本学から、設置目的、強み、社会的役割等の実績(エビデンス)を文部科学省に提出し、それに基づいて文科省が素案を作成の上、本学に提示し、意見交換をしながら作り上げていく手順であり、そういう意味では、本学から提案しているものである。)

- ・経済同友会の日本全国セミナーにおいて、ルース駐日米国大使が、日本の教育について、①女子の教育を高める必要があり、学問の世界で高い分野に押し上げていくような道を開く必要がある、②男子学生が海外に出て行って勉強する機会が少なくなっている旨の講話をされ印象的であった。そういう仕組みづくりをすることが、今後、日本の経済的・政治的強さに貢献するのではないか。

2. 平成 24 年度中間監事監査実施結果(概要)について

資料 4

学長から、資料 4 に基づき、平成 24 年度中間監事監査実施結果(概要)について報告があり、併せて、実施結果に基づく本学の対応等について説明があった。

続いて、伊藤監事から、コメントがあった。

(主な意見等)

- ・危機感が表れた監査報告となっている。
- ・経営の視点からも、運営費交付金が少なくなっている中で、どう対応したら良いかとのアドバイスがあれば良いのではないか。
- ・すばらしいマネジメントレビューを書かれている。統一的な哲学として、どういう観点・目線でまとめられたのか。
(→報告書の冒頭にもあるように、改革の嵐が吹き荒れている状況の中で、組織の職員がどう捉えているのか、文部科学省主導に振り回されることのないようなスタンスが必要ではないかとの視点である。)
- ・ステークホルダー全員に価値を感じてもらうことが大切。価値創出を担うような形で頑張っていたきたい。

3. 平成 25 年度学生数について

資料 5

茅野理事から、資料 5 に基づき、平成 25 年度学生数（平成 25 年 5 月 1 日現在）について報告があった。

4. 平成 25 年度宇都宮大学入学者選抜実施結果について

資料 6

茅野理事から、資料 6 に基づき、平成 25 年度宇都宮大学入学者選抜実施結果について報告があった。

5. 平成 24 年度卒業・修了者の進路状況及び就職未内定者への支援状況について

資料 7

茅野理事から、資料 7 に基づき、平成 24 年度卒業・修了者の進路状況及び就職未内定者への支援状況について報告があった。

6. その他

参考資料

学長から、参考資料に基づき、平成 25 年 4 月から 6 月における本学関係記事について紹介があった。

チラシ

佐々木学長特別補佐から、チラシに基づき、国際キャリア開発プログラムの開講について報告があった。

以 上